

REDD

NGOが期待する 企業の取り組み

WWFジャパン

森林グループREDDポリシー担当
栗野美佳子

2013/2/7

気候変動と途上国の森林を考える2日間

熱帯林保全活動の意義

- 企業から見た保全活動
- NGOから見た保全活動
- アクションがインパクトか

企業からすると

社会貢献

- ・・・分かりやすい・伝えやすい植林

CO2削減への貢献

- ・・・ストーリーとして

社員活動

- ・・・植林というアクション



NGOからすると

森林減少ドライバーの是正
・・・根本原因である事業
活動との関連づけ

保全コストの財源
・・・民間セクターからの
資金の必要性



© Jürgen Freund / WWF-Canon

ギャップの原因

保全活動の目的は何か？

目に見えるアクション

VS

インパクト

インパクトを重視すると・・・

植えたマングローブは全滅 しかし 天然更新が促進
→植林としては失敗だが、プロジェクトとしては成功

保全活動に求められる要素

- 森林減少原因
- 時間軸
- ガバナンス

森林減少ドライバー

なぜ森林は消えるのか？

国立公園の不法居住者を移転させ、跡地に植林

→原因不明の火災により、消失

→植え直し？

→植え直し後？

ドライバーを緩和させる活動との組み合わせ

わせ

地域住民との関係性

地域当局との関係性

2012 08 08

長期的関与

植林 ≠ 森林

ドライバーの再発防止

森林管理作業

モニタリング

**誰がそのコストを負担するの
か？**

管理主体

森は誰のものか

所有権・・・先住民・地域住民（ILC)問題

管理主体・・・土地利用計画に基づく森林区分

管理能力・・・「ペーパー保護区」

企業の森林保全活動としてのREDD

- パフォーマンスか結果か
- 自己主張か認証か
- 展望

「アクションかインパクトか」再び

保全資金としてのREDD

Performance Base (アクションベースで支払い)

Result Base (実際の排出削減量で支払い)

いずれにしても長期性が必要

「お手盛り」から「検証へ」

森林炭素「クレジット」としての認 証

一定の方法論

認証機関の存在(VCS)

スタンダードの存在 (CCBA Standard)

可能性と課題

- 地域コミュニティとの関係性をビルトイン
- 生物多様性にも貢献（ノン・カーボン・ベネフィット）

しかし

- ✓ 国際条約交渉の停滞
- ✓ 方法論は未確立
- ✓ 根強い反対論や誤解



トライアルステージが続く

WWF IN SHORT

+100

WWF is in over
100 countries, on
5 continents

1961

WWF was founded
In 1961



+5000

WWF has over
5,000 staff
worldwide

+5M

WWF has over
5 million supporters

